

5 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋



5月上旬から春期の堤防の除草が始まる。除草作業をしている付近を通ると、刈り草の香りが漂ってくる。今年は、春の訪れが遅かったせいか、雑草の草丈がそんなに高くないのだが、それでも、除草された堤防の土手はすっきりとして気持ちがいい。

～ユリノキ～

当古橋公園は近年遊具やトイレが更新されたので最近できた新しい公園のように見えるが、公園に植えられた木は大木となったものが多く、この公園の歴史がそれなりに古いものであることを想像させる。

その中の一本がこのユリノキ。5月中旬から大きくて色や形もはでな花を多数咲かせる。ただ、高木であるがゆえに、花が咲いても目につきにくく、上を向いて花をつけるため、なかなか写真に撮りづらい。



ユリノキは明治時代に北米から渡来した外来種。花がユリに似ていることからユリノキという名前が付けられ、学名もそれに由来している。しかし、この花がユリに似ているといわれてもかなり「？」である。別名としてはチューリップの木という名称もあるのだが、花の形からするならばむしろこちらの方がぴったりだと思うのだが。また、和名とし

てはハンテンボクという名称もある。これは葉の形からつけられた名称なのだが、なるほど、上手に名前を付けたものだと感心してしまう。

ユリノキは公園木や街路樹として利用されている。成長はさほど早くないものの大木となる。新宿御苑にあるユリノキは日本で最初に植えられたものとされているが、その樹高





は 35m。広大な芝生広場の中でひととき存在感を発揮している。

しかし、巨木化するせいであろうか、あまり見かけることのない木である。また、たとえば浜松市の「ゆりのき通り」では街路樹として用いられているが、刈り込みによって樹形が抑制され、伸び伸びとした樹形を見ることができないし、花を咲かせることもない。その意味では当古橋公園のユリノキは結構貴重な木といえる。

10 年後、20 年後にどんな姿になっているか、楽しみである。